

## 第4回徳島県教育振興審議会会議概要（未定稿）

1 日時 平成24年11月12日（月）13時30分～15時30分

2 会場 県庁10階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 22名中 20名出席

(2) 県 教育長，副教育長，教育次長 ほか

4 会議次第

(1) 開会

(2) 徳島県教育振興計画（第2期）中間とりまとめ（案）について

(3) 質疑及び意見交換

(4) 閉会

5 主な意見の整理

第2章 計画策定の背景

① 11ページのいじめの問題で、これが全国に比べて非常に多い数字なのか、小さい数字なのかちょっとわかりにくい。合わせてそういう判断ができる数字も示していただければと思う。

第4章 今後5年間に取り組む施策

基本方針1-1 キャリア教育の推進

① キャリア教育の今後の取組で、徳島県は職業訓練校を新たに開校したりもしているの  
で、県の職業訓練校でおこなっているような職業訓練等の取組とも連携を図っていく  
というようなことも、ここに盛り込むというのはどうだろうか。教育方針のなかに入れ  
てできるかどうかはわからないが、何か連携できるのではないかと思った。

② キャリア教育というのはもっともっと厳しいことを教えていかなければいけないと思  
う。学校教育の現場と実社会でのギャップの一番の大きいところはコスト意識。夢は  
持っているけれども、それを実現するためにはどうしたらいいか。当然、お金もかか  
る。そのお金を取ってくるには、自分がいやな仕事もしなければいけない。どうやっ  
てお金がまわっていくのかという、いわゆるリアルな経済を学ぶ場、1円を稼ぐこと  
がどれだけ大変なことかということ、どうして1円を稼がないといけないのかとい  
うところまで踏み込んだ教育というのをしているのかどうかということ、一つの問題  
ではないかと思っている。

③ 「本県における新規高等学校卒業就職者の3年以内の離職者は39.7%となっており、  
全国平均を上回っています。」について、大きな問題であると思うが、それについて  
の記載が薄いように思う。貴重な若者の戦力が3年間で約4割スパアウトしてると

いうことで、これは非常に大きな問題ではなかろうかと思う。そうした中において、この若者が辞めないための耐える力、それと辞めたあとでもまた再チャレンジする若者を受け入れる社会としての構築、システムの構築、こういったことができたなら徳島は非常にいい地域になると思う。そういう観点から、最後の対応で、勤労観・職業感の育成というのは少し抽象的な感じがしないでもない。これらをもっと大きな問題として取り上げてはどうだろうか。厳しい現状の中で若者がもっと生き生きと勤労の場で働けるシステムづくりや場を提供するとかといったものが重要ではないかと感じるので、表現にもっと肉付けがあるものにできないだろうか。

- ④理科教育に関しては、工学部は1年に1回、サイエンスフェスティバルというのを開き、理科に関して興味を持つように2日間ほどいろいろな催しを徳島県内の企業の協力も得て実施している。また、出張で勝浦や阿南などいろいろなところに行って実験をしたり指導しているが、まだまだ少ない。こういった面では、さらに大学は協力できると思う。

#### 基本方針1-2 グローバル化に対応した教育の推進

- ①日本のことや、例えば、徳島のこと、郷土のことを、英語で話せるのかということ、そういう教育はあまりされていないのではないかという気がする。国際化やグローバル化ということに対応するのであれば、可能かどうかはわからないが、例えば、徳島の阿波踊りとか、徳島の文化とか、郷土の文化を外国語で発表するようなことを授業の中で取り入れるか、外国語で郷土のことを外国人に向けて話すことができるような教育を取り入れれば、郷土の文化を理解するということも同時にできていいのではないだろうか。
- ②25ページの上から三番目の丸で、(第3回審議会の時)の意見では、「講師として登録し」という文言がなかったが、「講師として登録し」と入れると、私の意見としては、講師の数も限られてしまって、新しい人を更新していくのがちょっと難しいと思ひ、この「講師として登録し」という文言を削って、「経験者を希望する学校に派遣するシステムの充実に取り組みます」と書き換えていただくか、もしくは「経験者を、次の講師として登録し」というのを除いて、「各種関係機関と連携し希望する学校に派遣するシステムの充実に取り組みます」という記述の方がいいのではないか。

#### 基本方針1-4 スポーツ文化の創造

- ①スポーツ文化の創造、創造というのはゼロからつくる、今までにないものをつくるという意味で、すごく趣旨には全面的には賛同している。ただ、書いてある内容が創造力が発揮されたものかということ、疑問なところが多々ある。鳴門渦潮高校における取組というのは非常に戦略的に理解することができるが、それ以外の部分というのはこれまでとどう違うのかが分かりにくい部分があるかと思う。
- ②競技力の向上の点の全般についての問題で、ハード面の充実という部分と競技力の向上というのは非常に密接な結びつきがある。ただこれは予算の問題もあるので、どういように取り組みむのかということはお任せしますが、ハード面の充実、施設設備の充実というのは非常に重要だということも認識しておいていただきたいと思う。
- ③スポーツの競技力を向上させるために、一貫指導体制とうのは本当に大事なことなの

でぜひ構築していただきたい。道のりというのは相当険しいと感じているが、ぜひこれを構築して行っていただきたいと思う。

- ④障害者スポーツから得られるものというのはすごく大きいものがある。いろいろな元気をもらえたり、希望をもらえたりこんなことでくよくよしてたってしょうがない、ということを知ってくれることもある。実際、障害者の方にとっても生きる活力になっていたりもするので、この障害者スポーツというのはぜひ充実を図っていただきたいと思う。特に外部団体ともっと積極的に交流しながら、進めていけばいいのではないかと思う。
- ⑤スポーツを通じた幸福で豊かな生活の創造という点に関して、徳島に二つプロスポーツチームがあるということ自体が大きな特徴なので、ぜひ、スポーツを通じた幸福で豊かな生活の創造のどこにでも、徳島ヴォルティスと徳島インディゴソックスを活用していただくことを明言していただきたいと思う。

## 基本方針2全般

- ①最近の小学校では、テストで点数がつかないという小学校があるらしく、マルとバツはついてくるのだけれども、点数はつかないから家でどうやって指導していいのかわからないという友人がいる。運動会をしても順位をつけないという、そんな社会というのが本当にいいのかということをも含めて、ここに反映をしていただけたらと思う。たぶん、すぐに答えがでるようなものではないと思うので、検討の中に入れていただければと思う。

### 基本方針2-1 確かな学力の育成

- ①幼稚園、小学校、中学校の連携を図るところがあるが、近年幼稚園には行かずに、保育園・保育所から直接小学校にあがるというような子どもたちが増えていると伺っている。管轄が異なるので、このなかにも含めるべきかどうかということには、問題があるかもしれないが、小学校にあがってからの子どもたちが、幼稚園から出ていく子どもたちと、保育園から出ていく子どもたちとに、あまり差が生じないように、保育園への働きかけや交流というのもしっかりとおこなっていただければと思う。

### 基本方針2-3 健やかに生きる力の育成

- ①学校体育の充実との点とも絡んでくるが、学校体育における評価の仕方という点において、たぶんできないと思うがあえて意見として述べさせていただきたい。子ども時代にスポーツが嫌いという印象が付いてしまうと、そのあとその印象を覆すのは非常に難しい。一人でも多くの子に、スポーツを好きになってもらえるような仕組みを作ることが全ての根本ではないかと思っている。つまり、スポーツに対する評価の仕方を考え直してみたらどうか。今後の取組のところに、学校体育における評価の仕組みを変えるという視点を入れることは出来ないかと思っている。スポーツには「する」「観る」「支える」という3つの側面がある。例えばすることが苦手な子については、「観る」とか「支える」という面から評価を挽回できるようなチャンスを与えるということが大事なのではないかと思う。現状の評価のシステムというのは「する」という点からの評価にかなり偏っているような気がする。例えば、小学生であれば野

球の試合を観た観戦日記を提出させる、あるいはスポーツ選手の躍動している絵を描かせる、その内容を国語とか美術の評価ではなくて、体育の評価に加えてもいいのではないかと思う。体を動かしてする評価と同列で評価することも出来るのではないかと思う。スポーツを「する」「観る」「支える」といった側面についても、学校体育の領域、特に評価にも反映させる仕組みというのは考えられるのではないかと思っている。

#### 基本方針3-1 学校・家庭・地域の連携の推進

- ① 私たちでも「放課後子ども教室」があるとかの認識がない、だから気にしてもいい。どのように広報及び啓発に努めたら地域がらみの教育ができるかというところに視点をおいていただければいいと思う。

#### 基本方針4-2 学びの環境の充実

- ① 県全体が学びの環境を充実をさせたいという項目の大きな枠の中に、文化の森総合公園のことが半分ぐらいで、あと公民館と少し牟岐少年自然の家がいきなり具体的にでてくる。徳島県は他にも神山森林公園、動物園、それから県立書道館とか、いろいろな公的施設、学びの環境を整えられる施設がたくさんあると思う。コンサートホールなどそのへんのことももう少しいろいろ書き込んで盛り込んでほしいと思う。

#### 基本方針4-6 生涯スポーツの振興

- ① 悪い意味で捉えていただきたくないが、NPO法人格の取得を促進するという記述がある。ぜひ気をつけていただきたくないのが法人制度の問題だけではないということ。これはきちんとしたNPO法人があるというのが前提だが、どうしても補助金に頼りがちな部分があると思う。ただ、補助金というのは税収からまかなわれ、予算があつて限界があるものなので、自立した運営をしていくための仕組みづくりというのも勉強して行かなければいけないのではないかと思う。自立した運営が出来るための勉強が出来る場というのを作った方がいいのではないかと思う。財務の勉強であるとか、運営費を賄うための収益システムづくりであるとか、そういったにことについてももっともっと盛んにしていけばいいと思う。

#### 基本方針5-1 安全・安心なとくしまの学校づくり

- ① 安全・安心の学校づくりのところで、東日本大震災の教訓を踏まえてということで、記載されているが、やはり、南海トラフの巨大地震に備えるということが大事なのでそういう表記を学校教育でも前面に出しておいた方がいいのではないかと思う。

#### 基本方針5-3 私立学校の振興

- ① 今は変な所であまり競争もなく、区別もない、本当に普通にしていれば高校に行けるという実状なので、ひいては将来の学力に影響するのではないか。そういう意味で私学も生徒を確保して、競争をして、そして将来は徳島県の発展のために尽くしたいと思っているので配慮をして取り組んでいただきたいと思います。

## 全般

- ①全国平均を上回っている、下回っているという表現で、例えば、77ページ「徳島における私立学校在籍生徒等の割合は、高等学校では、全国平均30.3%に対し、4.0%であり、全国平均を下回っています。」単純に上回っている、下回っているというより大きく下回っているというようなメリハリのついた表現をできないだろうか。逆の意味では、21ページで、全国平均が96.9%、徳島県が96.5%で下回っているという表現があるが、これはほぼ同じ水準というのが妥当と思う。こういう表現はもっと実態に応じたメリハリのついた表現にできないだろうか。
- ②(全国平均と比較して)上とか下とか、そのへんの比較的な表現とうのは、ある一定のランクで平準化させておき、この程度なら「やや」とかこの程度だと「ほぼ」とか、この程度だと「大幅に」とか、ある程度、ある一定の、暗黙の基準でも結構なので、基準を決めておくといいのではないかと感じる。
- ③この計画を推進、遂行して行って、結果、数値目標なり、心の中で養われるものもたくさんあるが、これが本当に実現可能なのかというようなことについても、全体を通して検討する必要があるのではないかと思う。各項目に関しても、一人一人の教員が取り組むべきことが非常にたくさん盛り込まれているので、負担が集中するということも考慮して検討していただければと思う。
- ④地域の小学校、中学校が統廃合されるということは生徒だけの問題ではなく、間近にあった地域の拠点、防災の拠点というものが少し遠くなったりすることもおきる。いままで地域で育ててきたものや子どもを取り巻く環境が変化する時期だと思う。だから、そういうことに関しての何か環境づくり、体制づくりというものをどこかに盛り込んでいただいてもいいのかと考える。

